

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年10月22日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月22日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして御説明をいたします。

まず、10月26日の（3）ですけれども、敦賀のボーリング柱状図の公開会合ということで、こちらはウェブではなく対面での会合になります。

議題は業務プロセスの確認ということで、8月17日の委員会で業務プロセスを優先的に検査するという事になってはいますが、それを受けてのものということになります。

今月になって何度か検査に入りましたので、その際の気づき事項を規制庁側から説明するという事と、原電側からは業務プロセス見直しの方針の説明などがあるということになります。

次に、10月28日の（6）第1011回審査会合ということですが、こちらは議題は特重なので非公開ということになります。

議題は2つありまして、1つは美浜と大飯の保安規定、これは今回が初回の議論ということで、2つ目は柏崎刈羽の許可ということになりますけれども、こちらは継続して議論してはいて、コメント回答ということになります。

次が、10月28日（7）核燃料施設のほうの審査会合ということになります。

議題は2つありまして、1つ目はSTACYの工事計画認可ということです。

これは使用済燃料の貯蔵施設に関するもので、9月14日の会合でのコメントへの回答ということになります。

2つ目は常陽の設置変更許可であります。

これまで何度か議論をしてきましたけれども、解析コードのコメント回答という部分と、あと、炉心損傷防止措置と格納容器破損防止措置の有効性評価についてと。こちらは新たに議論が始まるものということのようです。

次が、10月29日の（9）放射線審議会です。

議題は2つありまして、1つ目は昨年制度の見直しを行った眼の水晶体の等価線量限度について、厚生労働省からその後の取組状況の説明を受けるということになります。

議題の2つ目は、放射線防護の基本的考え方の見直しということになります。

これはこれまでも何度か審議会で議論されてきたものでありますけれども、そのものについて具体的な修正文案を示すという段階までできましたので、それを示して議論をするというものになります。

見直しのポイントは、これまでの審議会でも出てきたものですが、クリアランスの考え方の反映とかICRP勧告の反映とか、個人関連、線源関連の考え方の整理といった3点を見直すということのようです。

次、3ページ目に行きまして、委員の現地視察等についてということです。

その(1)福島第一の視察であります。

これは既に発表もしておりますけれども、田中委員と伴委員が福島第一を視察します。見るものは、廃棄物管理関係の施設とALPS関係の施設ということになります。取材の対応要領なども既に発表済みかと思えます。

同じく現地視察の2つ目が、日本分析センターの視察ということになります。こちらは行くのは伴委員です。

日本分析センターというのはトリチウムの分析も行っているところでありまして、ALPSに関連してトリチウムの分析を今後行うことになりますので、その視察に行くということになります。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

では、ハセガワさん、お願いします。

○記者 NHKのハセガワです。

1Fの視察なのですが、これは毎年行っているものとか定期的に行っているものというよりは、何か目的があって行くようなことなのですか。

○黒川総務課長 毎年とか定例というよりは、まさに1F関係で廃棄物の扱いの議論とか、当然ALPSも今後ありますので、そういう議論がちょうど出てきた段階なので行くということになります。

○記者 伴委員と田中委員というのは、人選はどういう。

○黒川総務課長 まず、基本的に廃棄物関係は田中委員中心になっておられますので、田中委員。あと、1F関係は伴先生が中心になっていただいているので伴先生、一応そういう関係になります。

○記者 ありがとうございます。

○記者 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—